

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 3 月 15 日

事業所名 放課後等デイサービス パリティ

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			・限られた空間の中で、パーティションを活用して児童が落ち着く空間を作っている。	・今後、児童が増えることを想定して広い場所への店舗移転を進めていく。
	2	職員の配置数は適切である	4			・指定基準を遵守した適切な運営ができています。	・今後、児童が増えることを想定し、積極的にスタッフの採用をしていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4			・特に問題ない	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4			・日々の会議の中で、PDCAサイクルを実施している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			・アンケート集計後にホームページにて掲示している。	・お褒めいただいた部分は強化し、ご指摘いただいた部分はスタッフ間でしっかりと改善していく。 ・意見があった際には、すぐに改善していきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1		・提携会社、協賛会社に協力してもらっている。	・第三者からみた評価もすごく貴重だと思うので、引き続き外部への強化も依頼していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			・3ヶ月に1回、社内研修を実施し、それ以外にも定期的な研修に参加している。	・中高生に対し、就職に向けて児童に言葉遣いやマナーなどを教えられるよう、スタッフもマナー講座などを受講していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	1		・保護者と児童からの聞き取りをもとに作成している。	・「利用者主体」のサービスが提供できるように、本人の目標を第一に考えて計画の作成をしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1		・書類管理スタッフが定期的に研修へ参加し、スタッフの意見を踏まえて書類の見直しをし、児童、保護者のニーズがしっかりと反映されているかチェックしている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			・中高生に特化した事業所なので、それぞれの夢、目標に合わせた活動プログラムを取り入れている。	・高校生に関しては就労に向けて実習を重ねていく必要があるが、コロナで受け入れてくれる企業が少なくなった。もっとスタッフが営業に出て実習先を確保していきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4				
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	2		・課題は設定しているが、きめ細かくできてない部分もある。	・今後は課題をきめ細かく設定することで、濃い長期休暇を過ごすことができると思うので、スタッフ間で検討、設定していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	4			・児童の状況に合わせて、個別活動、集団活動のシーン別で目標を設定している。	・中高生に特化した事業所なので、社会に出た際に困難な壁をのり越えられるよう、社会性についても伸ばしてあげられるような計画を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			・午前中の時間で、その日の利用児の状況確認、共有をしている。	・前日の状況も踏まえて、当日の支援内容を検討している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		4		・送迎後に時間がなく、翌日に実施する日もある。	・翌日の会議でしっかりと課題や情報を提示できるように、時間がなくてもその日にメモを取り、翌日報告する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			・日々の記録は漏れなくしっかりと記入している。	・支援記録に、支援計画の枠を設けて日々の記録の際に計画を見ながら記録の記入ができています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	1		・定期的なモニタリングを実施している。	・計画相談員と連携し、適切なサービス、求められているサービスが提供できるようにしている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	1		・弊社として、基本活動の中でも特に「社会生活や経験の範囲が制限されないようにする」事に重点を置き、障がいのない子ども以上の体験に参加できるようなプログラム作りに励んでいる。	

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			・管理者だけの参加ではなく、他のスタッフも参加できている。	・スタッフによって、該当児童の態度が違ったりするので見え方も違う。より細かな情報を会議の中で提供できるよう、今後も管理者以外のスタッフも積極的に参加していく。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		4		・保護者とこまめに連絡を取るようになっている。	・行事などによって下校時間が変更になった際に連絡の行き違いがないよう、保護者との連絡を徹底していく。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			4	・現在は医療的ケアが必要な児童がいないため、「いいえ」チェックしました。今後、いつでも対応できるように、まずは協力医療機関としっかり連携していく。	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2		・今年度は保育園等からの受け入れがなかったが、今後その場面があればしっかりと情報共有をして、相互理解に努める。書類等は常に準備しておく。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4			・就職先に対して、一緒に面接へ同行し事前に児童の特性を企業に伝えた。	・今後も引き続き、高校卒業後の就職の際には企業側にこれまでの児童の取り組みや特性など、細かな情報を提供していく。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		4		・研修などへの参加は定期的にあるが、関わりが薄い。	・今後、可能な範囲ではあるが病院受診への同行などを通して専門機関との連携を深めていきたい。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			4	・今年度はコロナの影響で交流できていない。	・社会性を身につける為にも、多くの人と関わりを持たせることが必要なので、コロナウイルスの状況を見ながら交流の機会を増やしていきたい。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		4			
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			・連絡帳、メール、ライン、電話を活用してやりとりができています。	・必要な場合には、モニタリング以外でも保護者との面談をし、今後の支援の方向性を話しあっている。
保護者への説明責任等	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1		・今年度はコロナウイルスの影響で勉強会や交流会はできなかったが、その代わりに育児に関するお便りを配布した。	・コロナウイルスの影響で毎年恒例のBBQや子育てサロンが実施できなかったため、来年度はリモートの導入などを検討して実施したい。
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			・契約時に読み合わせている。	・契約時に読み合わせても、理解できていない場合もあるので契約後も確認しながら保護者が安心できるよう、丁寧に説明していく。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4				
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		・今年度はコロナウイルスの影響で勉強会や交流会はできなかったが、その代わりに育児に関するお便りを配布した。	・コロナウイルスの影響で毎年恒例のBBQや子育てサロンが実施できなかったため、来年度はリモートの導入などを検討して実施したい。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			・現在、苦情のケースが無い状況ですが、苦情があった際には、しっかりと迅速に対応します。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			・ブログや毎月の便り、タイムラインを活用して発信している。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	35	個人情報に十分注意している	4			・個人情報の漏洩がないよう、書類等は来客の目に届かない場所に保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			・中には自分の気持ちをうまく伝えられない児童もいるので、タブレットや筆談を活用している。	・今後、さらに意思疎通ができるようアプリの導入を検討している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4		・地域の掃除に参加し、地域に根付いた事業所作りを目指している。	・コロナの影響で、予定よりも地域への参加が少なかったため、来年度は地域住民との関係を図っていきたい。
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	2		・マニュアルはあるが、保護者への周知が不足している。	・今後は、避難経路やマニュアルをブログ、タイムライン、連絡帳への同封などを通して保護者へ周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			・避難訓練は年に2回行なっている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			・外部講師を活用しての研修(年に5回)と、定期的に研修へ参加している。	・虐待防止の知識は必須なので、スタッフ全員でしっかりと学んで適切な対応をしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	2		・重要事項説明書、運営規定等に掲している。 ・児童の特性を理解することで虐待防止につながると思うので、事前にしっかり理解する。	・契約時にしっかりと会議をし、児童の特性をスタッフ間で共有し、やむを得ず身体拘束を行う場合には適切な対応をする。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4			・契約時にアレルギーの有無をチェックしている。	・医師の指示書に従い、おやつ提供は児童に合わせたものを提供している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			・開所後、まだヒヤリハットの場面はないが、他事業所の事例集を置いて防止に努めている。	・いつ、ヒヤリハットが起きても迅速に対応し、同じことを起こさないようにファイルを準備している。